

泌尿器科学

1 構成員

	平成18年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助手（うち病院籍）	4人（2人）
医員	3人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	1人（0人）
研究生	3人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	6人
合 計	21人

2 教員の異動状況

- 大園誠一郎（教授）（H15. 4. 16～現職）
- 牛山 知己（助教授）（H18. 3. 1～現職）
- 麦谷 荘一（講師）（H16. 3. 1～現職）
- 古瀬 洋（助手）（H14. 7. 1～現職）
- 高山 達也（助手）（H12. 7. 1～現職）
- 鶴 信雄（助手）（H14. 1. 1～現職）
- 大塚 篤史（助手）（H15. 7. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成17年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	16編（4編）
そのインパクトファクターの合計	15.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	5編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0.96
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5編（5編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Tsuru N, Kurita Y, Suzuki K, Fujita K: Resistance index in benign prostatic hyperplasia using power doppler imaging and clinical outcomes after transurethral vaporization of the prostate. International Journal of Urology, 12:264-269, 2005, 0.629
2. Mugiya S, Ozono S, Nagata M, Takayama T, Ito T, Maruyama S, Hadano S, Nagae H: Long-term outcome of a low-dose intravesical bacillus calmette-guerin therapy for carcinoma in situ of the bladder : results after six successive instillations of 40mg BCG. Japanese Journal of Clinical Oncology, 35(7):395-399, 2005, 1.316
3. Mugiya S, Ozono S, Nagata M, Otsuka A, Takayama T, Nagae H: Retrograde endoscopic laser therapy and ureteroscopic surveillance for transitional cell carcinoma of the upper urinary tract. Int J Urol 13: 1-6, 2006, 0.629
4. Tsuru N, Suzuki K, Ushiyama T, Ozono S: Laparoscopic adrenalectomy for large adrenal tumors. Journal of Endourology, 19(5):537-540, 2005, 1.500
5. Tsuru N, Ushiyama T, Suzuki K: Laparoscopic adrenalectomy for primary and secondary malignant adrenal tumor. Journal of Endourology, 19(6):702-709, 2005, 1.500
6. Takayama T, Nagata M, Ichiyama A, Ozono S. Primary hyperoxaluria type 1 in Japan. American Journal of Nephrology, 25:297-302, 2005, 2.459
7. 高山達也, 甲斐文丈, 杉山貴之, 古瀬 洋, 麦谷荘一, 大園誠一郎 : 進行性腎細胞癌に対するサイトカイン療法の再検討, 泌尿器科紀要, 51 : 499-502, 2005
8. 永田仁夫, 麦谷荘一, 鈴木和雄, 大園誠一郎, 伊藤寿樹, 丸山哲史, 波多野伸輔, 永江浩史, 今西武志, 栗田 豊 : 前立腺再生検例におけるPSA関連マーカーの検討, 泌尿器外科, 18 (8) : 955-957, 2005

インパクトファクターの小計 [8.03]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Naito T, Shinno K, Maeda, Kagawa Y, Hashimoto H, Otsuka A, Takayama T, Ushiyama T, Suzuki K, Ozono S: Effects of calcineurin inhibitors on pharmacokinetics of mycophenolic acid and its glucuronide metabolite during the maintenance period following renal transplantation. Biol. Pharm. Bull. 29 (2), 275-280, 2006, 1.317

インパクトファクターの小計 [1.32]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ishikawa A, Ohta N, Ozono S, Kawabe K, Kitamura T: Inhibition of plasminogen activator inhibitor-1 by angiotensin II receptor blockers on cyclosporine-treated renal allograft recipients. Transplantation Proceedings, 37:994-996, 2005, 0.799
2. Uchida T, Baba S, Irie A, Soh S, Masumori N, Tsukamoto T, Nakatsu H, Fujimoto H, Kakizoe

T, Ueda T, Ichikawa T, Ohta N, Kitamura T, Sumitomo M, Hayakawa M, Aoyagi T, Tachibana M, Ikeda R, Suzuki K, Tsuru N, Suzuki K, Ozono S, Fujimoto K, Hirao Y, Monden K, Nasu Y, Kumon H, Nishi K, Ueda S, Koga H, Naito S: Transrectal high-intensity focused ultrasound in the treatment of localized prostate cancer: a multicenter study. Acta Urologica Japan, 51 (10):651-657, 2005

3. Terada H, Fujita K, Otsuka A, Shinbo H, Mugiya S, Ozono S: Oral clonidine advances spermatogenesis in oligozoospermic patients with spermatogenetic maturation arrest. International Journal of Urology, 12:815-820, 2005, 0.629
4. 石川賀子, 西口富三, 川島正久, 水主川純, 金山尚裕, 新保 齊, 大塚篤史, 大園誠一郎: 立位経会陰超音波断層法による下部尿路形態のタイプ分類, 日本ウロギネコロジー研究会誌, 2 (1) : 47-49, 2005
5. 高橋 悟, 藤村哲也, 太田信隆, 西松寛明, 鈴木和雄, 近藤幸尋, 牛山知己, 久米春喜, 石川 晃, 富田京一, 北村唯一: 腹腔鏡下根治的前立腺摘除術-初期6例の治療成績-, 泌尿器外科, 18 (3) : 257-262, 2005
6. Maruyama S, Oki T, Otsuka A, Shinbo H, Ozono S, Kageyama S, Mikami Y, Araki I, Takeda M, Masuyama K AND Yamada S : Human muscarinic receptor binding characteristics of antimuscarinic agents to treat overactive bladder. J Urol. 2006 Jan;175(1):365-9, 3.592
7. Mugiya S, Ozono S, Nagata M, Otsuka A, Takayama T, Nagae H. : Retrograde endoscopic laser therapy and ureteroscopic surveillance for transitional cell carcinoma of the upper urinary tract. Int J Urol. 2006 Jan;13(1):1-6, 0.629

インパクトファクターの小計 [5.65]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 麦谷荘一: 上部尿路疾患に対する内視鏡的診断と治療, 泌尿器科学の最近の進歩-2004年, 24-32, 2005
2. 永田仁夫, 今西武志, 栗田 豊, 古瀬 洋, 麦谷荘一, 鈴木和雄, 大園誠一郎: 前立腺再生検の適応決定におけるPSA-TZの年間増加量の検討, 腎泌尿予防医学会雑誌, 13 (1) : 63-64, 2005
3. 高山達也, 杉山貴之, 劉 紅明, 大園誠一郎, 石川 晃, 寺谷 工, 堂本知寛, 野沢龍嗣: 腎細胞癌におけるS100A10蛋白の特異的発現, 腎癌研究会会報, 28 : 9-10, 2005
4. 大園誠一郎: 男性のがん~早期発見・早期治療, 浜松医科大学公開講座未病の医学, 2005
5. 麦谷荘一, 永田仁夫, 高山達也, 大園誠一郎: 治療に難渋した腎癌骨転移の1例. 腎癌研究会会報 30 : 45-46, 2006.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 牛山知己: 副腎の超音波診断, Japanese Journal Medical Ultrasonics, 32 (2) : 123-131,

2005

2. 大園誠一郎, 大塚篤史：排尿障害の診断へのアプローチと前立腺肥大症診療ガイドライン, 治療学, 39 (11) : 55-58, 2005
3. 大園誠一郎, 鶴 信雄, 藤本清秀：前立腺肥大症に伴う排尿障害の評価, 排尿障害プラクティス, 13 (4) : 302-308, 2005

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Suzuki H., Nagata M., Ozono S., Fujimoto C., Determination of oxalate in human serum in the nM Range by on-column sample preconcentration-capillary zone electrophoresis with direct absorbance detection, Chromatographia 61(7/8), 333-337, 2005, 0.959

インパクトファクターの小計 [0.96]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大塚篤史, 新保 斉, 大園誠一郎：間質性膀胱炎は膀胱が痛いのか？, 排尿ケア, 10 (6) :62, 2005
2. 大園誠一郎：尿膜管腫瘍, 尿膜管嚢胞, 今日の治療指針私はこう治療している, 781-782, 2005
3. 新保斉, 大塚篤史, 大園誠一郎：前立腺肥大症の初発症状は夜間頻尿って本当？ 泌尿器ケア, メディカ出版 大阪府吹田市 10巻4号 Page370, 2005
4. 大塚篤史, 新保斉, 大園誠一郎：間質性膀胱炎は膀胱が痛いのか？ 泌尿器ケア, メディカ出版 大阪府吹田市 10巻6号 Page574, 2005

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. 麦谷荘一：TUL（経尿道的尿管碎石術）. 日本泌尿器科学会, 2005年卒後・生涯教育テキスト10 : 151-155, 2005.

4 特許等の出願状況

	平成17年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成17年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (90万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (20万円)

(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	8件 (725.2万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	22件 (2,273万円)

(1) 文部科学省科学研究費

大園誠一郎(代表者) S100ファミリー蛋白の腎癌における発現と早期診断および分子標的療法の可能性の検討 90万円(継続)

(2) 厚生科学研究費

大園誠一郎(分担者) 早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究 20万円(継続) 主任研究者:九州大学 内藤誠二

(5) 受託研究または共同研究

1. ヒト膀胱標本を用いたアドレナリンβ受容体作動薬の比較検討, 東レ(株), 平成17年4月1日～平成18年3月31日, 研究代表者, 120万円
2. NS-21二重盲検比較試験(第3相, オープンならびに長期), 日本新薬, 平成17年1月1日～平成19年3月31日, 治験責任医師, 175.2万円
3. バップフォー錠特別調査 -尿失禁患者における塩酸プロピペリンのQOL改善の検討-, 大鵬薬品, 平成17年1月4日～平成17年9月30日, 研究代表者, 30万円
4. 「ホルモン不応性前立腺癌に対するプレドニゾン併用によるRP56976の第Ⅱ相臨床試験」の継続投与試験, アベンティスファーマ(株), 平成17年4月21日～平成18年12月31日, 分担者, 26万円, 代表者:泌尿器科・古瀬 洋
5. NS75Bの前立腺肥大症患者を対象とした第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験, 日本化薬(株), 塩野義製薬(株)平成17年3月29日～平成18年6月30日, 分担者, 165万円, 代表者:薬理学・梅村和夫
6. 腎細胞癌患者を対象としたBAY43-9006の継続投与試験, バイエル薬品(株), 平成18年2月1日～平成19年10月1日, 代表者, 9万円
7. 膀胱用イムシスト使用成績調査, 日本化薬(株), 平成17年8月25日～平成19年10月31日, 代表者, 20万円
8. リュープリンSR注射用キット11.25の特定使用成績調査「前立腺癌:長期使用(96週)」, 武田薬品工業(株), 平成17年12月22日～平成22年12月31日, 分担者, 180万円, 泌尿器科・大園誠一郎

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	2件	33件
(2) シンポジウム発表数	0件	4件
(3) 学会座長回数	1件	7件
(4) 学会開催回数	0件	1件

(5) 学会役員等回数	0件	13件
(6) 一般演題発表数	3件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Ozono S, Management of Metastatic and Advanced PCa -Japanese MAB phase III study Update-, 2005 Casodex Prostate Cancer Symposium, Jeju, Korea, 2005.06.
2. Ozono S, Epidemiology and standard of care for bladder cancer in Japan, Japan advisory board meeting, Bangkok, Thai, 2006.02.

4) 国際学会・会議等での座長

1. Seichiro Ozono, The 51st Annual Congress of The Japan Section of the International College of Surgeons, Sapporo, Japan, 2005.05.

5) 一般発表

口頭発表

1. Mugiya S, Ozono S, Nagata M, Takayama T, Ito T, Maruyama S, Hadano S, Nagae H, Ureteroscopic laser treatment of chronic unilateral hematuria, The 51st Annual Congress of The Japan Section of the International College of Surgeons, 2005.05. Sapporo, Japan
2. Mugiya S, Takayama T, Kai F, Nagata M, Sugiyama T, Ushiyama T, Suzuki K, Ozono S: Investigation of prognostic factors associated with recurrence in patients with renal cell carcinoma after curative surgery. The 22nd Korea-Japan Urological Congress, 2005.9, Jeonju (Korea)

ポスター発表

1. Soichi Mugiya, Seichiro Ozono, Masao Nagata, Tatsuya Takayama, Toshiki Ito, Satoshi Maruyama, Shinsuke Hadano, Hiroshi Nagae, Ureteroscopic evaluation and laser treatment of chronic unilateral hematuria, 23rd World Congress on Endourology & SWL, 21st Basic Research Symposium, 2005.08. Amsterdam, the Netherlands

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 浜松カンファランス, 浜松市, 2005.07.

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 永田仁夫, おしっこが出るしくみ, 市民公開講座「尿失禁に悩んでいませんか?」, 浜北市, 2005.04.
2. 麦谷荘一, 尿路結石の治療 - ESWL と endourology. 第93回日本泌尿器科学会総会, 東京

2005.4.

3. 麦谷莊一, 尿路結石症の診断治療. 第93回日本泌尿器科学会総会, 東京, 2005.4
4. 大塚篤史, トイレに間に合わない尿もれ, 市民公開講座「尿失禁に悩んでいませんか?」, 浜北市, 2005.04.
5. 大園誠一郎, 腎細胞癌の治療の現況, 第48回岡山腎疾患懇話会, 岡山市, 2005.05.
6. 大園誠一郎, 内科受診の機会が多い泌尿器疾患－特に頻尿・尿失禁を中心に－, 浜松市内科医会 6 月例会, 浜松市, 2005.06.
7. 大園誠一郎, 表在性膀胱癌に対するTURBT－complete TURBTを目指して－, 第 6 回浜松泌尿器科手術手技研究会, 浜松市, 2005.06.
8. 大園誠一郎, 排尿異常－排尿障害と蓄尿障害について－, 磐田市医師会・磐周医師会合同学術講演会, 磐田市, 2005.06.
9. 大園誠一郎, 前立腺肥大症と排尿障害“新時代の到来”シリーズ (12) TURPのクリニカルパス, BSラジオNIKKEI「メディカル・ダイジェスト」, 2005.08.
10. 大園誠一郎, 尿失禁－ひとりで悩まないで!－, 浜松医科大学公開講座, 浜松市, 2005.09.
11. 大園誠一郎, 「EBMに基づく前立腺肥大症ガイドライン」の評価と問題点－アウトカムリサーチを踏まえた泌尿器科医の今後の取組み－, 第23回東三河泌尿器科談話会, 2005.09.
12. 牛山知己, 腎臓移植について, 市民公開講座「腎臓のおはなし」, 浜松市, 2005.09.
13. 大園誠一郎, 表在性膀胱癌の治療戦略－疾患の自然史に基づいた考察－, 富山県泌尿器科木曜会, 富山市, 2005.10.
14. 大園誠一郎, 前立腺がん, 浜松市医師会第229回生涯教育研修会, 浜松市, 2005.10.
15. 大園誠一郎, 蓄尿障害の診療指針－頻尿・尿失禁の最近の知見を中心に－, 学術講演会, 浜松市, 2005.11.
16. 麦谷莊一, Controversial Cases in Endourology. 第 19 回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 東京, 2005.11
17. 大園誠一郎, 進行前立腺癌の治療－MAB第Ⅲ相試験結果を踏まえて－, ウロロジカルキャンサーフォーラム 2005, 仙台市, 2005.11.
18. 麦谷莊一, 前立腺についてのお話し～50歳を過ぎたら～「前立腺とは」, 市民公開講座, 浜松市, 2005.11.
19. 青木高広, 前立腺についてのお話し～50歳を過ぎたら～「前立腺肥大症について」, 市民公開講座, 浜松市, 2005.11.
20. 古瀬 洋, 前立腺についてのお話し～50歳を過ぎたら～「前立腺癌について」, 市民公開講座, 浜松市, 2005.11.
21. 永田仁夫, 前立腺についてのお話し～50歳を過ぎたら～「前立腺検診について」, 市民公開講座, 浜松市, 2005.11.
22. 大園誠一郎, 最近の腎癌研究会の話題－共同研究結果ならびにガイドライン作成を目指して－, 第 6 回沖縄腎癌研究会, 那覇市, 2005.12.
23. 大園誠一郎, HRPCに対する化学療法の現状, 第3回静岡前立腺フォーラム, 静岡市, 2006.01.
24. 大塚篤史, OABSSを用いた過活動膀胱における塩酸プロピペリンの有用性の検討, 浜松医

- 大泌尿器科関連病院OAB研究会，浜松市，2006.01.
25. 大園誠一郎，表在性膀胱癌の治療戦略－疾患の自然史に基づいた考察－，第118回香川県泌尿器科医会，高松市，2006.01.
 26. 麦谷荘一，TUL術式の標準化に向けて．第4回北海道泌尿器科手術手技研究会，札幌，2006.1.
 27. 大園誠一郎，表在性膀胱癌の治療戦略－疾患の自然史に基づいた考察－，第337回日本泌尿器科学会新潟地方会，新潟市，2006.03.
 28. 大園誠一郎，前立腺肥大症の病態と治療－「EBMに基づく前立腺肥大症診療ガイドライン」の評価と問題点をふまえて－，静岡県病院薬剤師会西部支部例会，浜松市，2006.03.
 29. 大園誠一郎，表在性膀胱癌の治療戦略，第16回印旛市郡泌尿器懇話会，佐倉市，2006.03.
 30. 大園誠一郎，前立腺肥大症の病態と治療－「EBMに基づく前立腺肥大症診療ガイドライン」の評価と問題点をふまえて－，神戸市薬剤師会学術講演会，神戸市，2006.03.
 31. 大園誠一郎，HRPCに対する治療戦略，Itabashi Prostate Cancer Workshop，東京都文京区，2006.03.
 32. 大園誠一郎，表在性膀胱癌の治療戦略－疾患の自然史に基づいた考察－，第67回日本泌尿器科学会茨城地方会，つくば市，2006.03.
 33. 麦谷荘一，大園誠一郎：治療に難渋した腎癌骨転移の1例．第231回日本泌尿器科学会東海地方会，2006.3，名古屋.

3) シンポジウム発表

1. 永田仁夫，高山達也，大園誠一郎，市山 新，過蓆酸尿症における遺伝子発現，第93回日本泌尿器科学会総会，東京都，2005.04.
2. 大園誠一郎，「免疫原性の高い癌であるため，転移巣治療においてサイトカイン療法が標準的治療とされているが，これは正しいか？」，第29回腎癌研究会，東京都，2005.04.
3. 大園誠一郎，泌尿器科的総論・バイオマーカー，第24回浜松内科泌尿器科研究会，浜松市，2006.03.
4. 牛山知己，血尿に対する画像診断，第24回浜松内科泌尿器科研究会，浜松市，2006.03.

4) 座長をした学会名

1. 大園誠一郎，BPHの診断治療，第93回日本泌尿器科学会総会，東京都，2005.04.
2. 大園誠一郎，CAPD/方法・病態・その他(2)，第50回(社)日本透析医学会学術集会・総会，横浜市，2005.06.
3. 大園誠一郎，臨床 前立腺疾患，第12回日本排尿機能学会，松本市，2005.10.
4. 大園誠一郎，腎臓，第43回日本癌治療学会総会，名古屋市，2005.10.
5. 麦谷荘一，腎細胞癌，第55回日本泌尿器科学会中部総会，神戸市，2005.10.
6. 大園誠一郎，前立腺肥大症に対する新しい経尿道の手術，第19回日本 Endourology ESWL学会，東京，2005.11.
7. 大塚篤史，第230回日本泌尿器科学会当会地方会，名古屋市，2005.12.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 大園誠一郎 日本泌尿器科学会 評議員
大園誠一郎 日本癌治療学会 評議員
大園誠一郎 日本排尿機能学会 理事
大園誠一郎 日本Endourology・ESWL学会 評議員
大園誠一郎 日本老年泌尿器科学会 評議員
大園誠一郎 日本腎臓学会 評議員
大園誠一郎 日本透析医学会 評議員
大園誠一郎 日本内分泌外科学会 評議員
大園誠一郎 日本アンドロロジー学会 評議員
大園誠一郎 日本女性骨盤底医学会 理事
麦谷荘一 日本Endourology・ESWL学会 評議員，尿路結石治療指針検討委員会委員，尿路結石内視鏡治療標準化委員会委員
麦谷荘一 日本内分泌外科学会 評議員
麦谷荘一 日本超音波医学会 泌尿器用語・診断基準検討小委員会委員，超音波専門医認定試験委員会委員，超音波検査士認定試験委員会委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース（reviewer）の回数と雑誌名（国）をお書きください。

1. International Journal of Urology（日本）8回
2. Japanese Journal of Clinical Oncology（日本）2回
3. International Journal of Clinical Oncology（日本）2回
4. Urology（米国）1回
5. 日本EE学会誌（日本）1回
6. 日本透析医学会誌（日本）3回
7. 泌尿器科紀要（日本）4回
8. Therapeutic Apheresis and Dialysis（日本）1回

9 共同研究の実施状況

	平成17年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	7件
(3) 学内共同研究	1件

(2) 国内共同研究

1. 我が国における尿路結石症の全国疫学調査，日本尿路結石症学会，2005.1-2005.12，資料の提供，研究成果発表：未，（研究費：平成17年度科研費基盤研究（C）代表者：郡 健二郎（名

古屋市立大学教授))

2. シスチン尿症の遺伝子解析および臨床応用, 千葉大学附属病院 腎・泌尿器・男性科, 2004.10-2009.3, 資料の提供
 3. 「T1b 腎細胞癌における循環血液中腎癌細胞検出の臨床的意義の検討」
 4. 「腎細胞癌根治切除例に対する天然型 IFN- α 術後補助療法に関する多施設共同研究」
 5. 「S100 ファミリー蛋白の腎癌における発現と早期診断における有用性の検討」
 6. 排尿機能におけるメディカルハーブ (ノコギリヤシ) の機能解明 (静岡県立大学薬学部), 自主研究
 7. 膀胱上皮の排尿機能における機能解明 (静岡県立大学薬学部), 自主研究
- (3) 学内共同研究
1. 「腎癌の発生・進行に関連する遺伝子・蛋白質の細胞内シグナル伝達機構の解明およびその臨床応用」

10 産学共同研究

	平成17年度
産学共同研究	3件

1. ヒト膀胱標本を用いたアドレナリン β 3 受容体作動薬の比較検討, 東レ(株), 平成 17 年 4 月 1 日 ~平成 18 年 3 月 31 日, 研究代表者, 120 万円
2. NS-21 二重盲検比較試験 (第 3 相, オープンならびに長期), 日本新薬, 平成 17 年 1 月 1 日 ~平成 19 年 3 月 31 日, 治験責任医師, 175.2 万円
3. バップフォー錠特別調査 - 尿失禁患者における塩酸プロピペリンのQOL改善の検討 -, 大鵬薬品, 平成17年1月4日~平成17年9月30日, 研究代表者, 30万円

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 大園誠一郎「尿失禁の治療法解説」静岡新聞 9月4日
2. 大園誠一郎「尿失禁 - ひとりで悩まないで 浜松医科大学公開講座」静岡新聞 9月18日
3. 古瀬 洋 他「前立腺テーマの講座400人熱心に」静岡新聞11月28日